

のうね Noun+ PLUS

秋号

人と地域をつなぐ情報誌



CONTENTS

- ✔ 特集—のうねの郷まつりが4年ぶりに開催!
- ✔ トピックス、企業の星、投稿スクープ
- ✔ 歴史の場所を歩く



「お米をたくさんの人に食べて欲しい、お米のおいしさを届けたい」
自家製コシヒカリを使用し
3姉妹が心を込めてひとつひとつ握ったおにぎりを販売



おにぎりの頂上に具がのぞくよう柔らかいタッチで握ること。厚みのある三角形のおにぎりがいろいろそろっているのがまた楽しい。定番のものから季節限定のもの、福井の食材を使ったものまで取りそろえていて、何度行ってもわくわくさせてくれる。

また、お店の奥では、3姉妹のお母さんが茶懐石「穂と芽」を営んでおり、1階厨房でおにぎりの下ごしらえをしながら、予約が入ると客室で茶懐石の昼と夜のコースでもてなしをすること。

「祖母から父へ、家族みんなで作ってきたお米をたくさんの人に食べて欲しい」という思いで作った3姉妹のおにぎりが、米の消費拡大につながっていくのではと期待が膨らむばかりだ。

(取材：じょうほう部会 尼形敏紀)



のうねキッズカルタ 完成しました!

平成20年度から取り組んできた「キッズカルタ事業」が、今年ようやくカルタとなり、のうねの郷まつりで披露されました。今後は「カルタ大会」や「のうねお宝、マップ」などを実施予定です。お楽しみに!



編集後記

先日古城マラソンにエントリーして5キロ走ってきました。日頃の行いがいいのかとても天気が良く、暑いくらいでした。健康の為にも普段から時間があれば3キロ5キロ走るようにしています。でもいざ本番になると周りの人達が早すぎて自分のペースで走るのが難しく5キロとはいえとても疲れました。早い人だと17分くらいでゴールしますが、僕は29分くらいかかってしまいました。来年もエントリーして25分目指して頑張ります。

(たかちゃん)

自分たちの地区は自分たちで守る

安全確認! パトロール出動

安全パトロールは、長畝地区内の犯罪防止、少年非行防止、交通事故防止、更には、災害危険箇所の見まわり等を目的に、のうねの郷づくり推進協議会の会員が当番制で実施しています。

青ランプを点灯し、坂井市の歌「しあわせの花」の音楽を流しながら長畝地区内を巡回しています。長畝地区のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。



パトロールしている姿を見かけましたら気軽に声を掛けてください。



4年ぶり 最高!!

のうねの郷まつり!!

～つなごう まもろう のうねの郷～



へて鉛筆で地元の竹原誠さんが描いた「のうねキッズカルタ」完成披露式が行われました。郷土のうねの良さを詠み込んだ高い完成度に大絶賛、会場は拍手喝采でした。

近藤区長会長の開会宣言でステージ発表、展示場、賑わい広場が一斉にスタート。ステージでは丸岡中学校・丸岡高校吹奏楽の合同演奏やコミセンサークルの素晴らしい発表が披露されました。会場ホールでは各クラブ・団体や小学生・保育園児の作品を展示、目を見張る出来栄えに皆さんが足を止めていらつやいました。外では、つき立てのお餅・焼きそば・食欲をそそる焼き鳥などなど長い列が出来るほどの大人気でした。ステージの最後は地元の半澤鈴之介さんの耳コピで駅舎メロディーやボカロ曲の演奏があり、クロージングでは初の試みで各年齢層による未来宣言をしました。

夕方からのナイトショーでは、総踊り練習と子ども花火、その後打上げ花火で「2023のうねの郷まつり」のフィナーレを飾りました。

最後になりましたが、4年ぶり開催に大勢のご参加を頂いた本イベントに賛同・協賛いただいた皆様、お手伝い頂いた区長会・小学校PTAをはじめ各種団体の皆様、心から感謝申し上げます。

(ふれあい部会長 北秀孝)

お待たせしました。2023のうねの郷まつり9月24日(日)いきいきプラザ霞の郷で盛大に開催。コロナ禍制限が緩和され、思いっきり楽しみたい気持ちを通じたのでしよう、最高の秋晴れのもと大勢の皆様楽しんで頂きました。

オープニングは、つほみ保育園児のかわいい合唱と小学二年生のダンス。引き続き、10年以上に亘りまち協と長畝小学校児童で読み句に取り組み、絵札はす

日 坂井・延岡ジュニア交流事業 日向神楽を学び、文化交流

姉妹都市を結ぶ坂井市と宮崎県延岡市の児童による交流事業が、8月2日(水)に行われました。この日は丸岡城見学のあとに長畝日向神楽伝承館を訪れました。坂井市の21人と延岡市の13人はまず日向神楽ビデオを鑑賞、伝承館に場所を移し日向神楽の歴史、延岡藩、丸岡藩のつながりを学んだのちに長畝八幡神社境内で神楽の演目「散米」を鑑賞しました。悠々の時を経て、お互いに地域の文化の理解を深め、故郷への愛着を育む交流となりました。



山 第54回丸岡古城まつり開催 山車巡行、長畝地区を練り歩く

朝8時、石上区の高岳寺を「本多作左衛門」の山車が出発、途中からくり武者の演舞を披露しつつ、石上→里丸岡→今町→霞ヶ丘と進み、お天守前広場までのコースを練り歩きました。練り歩く先で沿道から多くの皆様に見守られ、お隣子は賑やかに、太鼓の子どもたちも可愛らしく、引手の区長たちは法被まとい、みんなが力を合わせて山車巡行を行いました。お天守前広場で、丸岡地区を練り歩いていた「本多成重」の山車と合流し、無事親子の対面を果たしました。



事前の衣装合わせではコスプレイベント気分でしたが、当日お天守前広場での城主法要の厳格さに背すじが伸び、2時間ほどですが初代城主柴田勝豊という大役をまっとうしなければならない責任感が生まれました。たった300mを40分以上かけて歩くことは恥ずかしさもあり大変でしたが、姉妹都市の延岡からの参加もあり、交流の場として今後も継続していかなければならないものだと感じました。良い経験がありました。(長畝小学校PTA会長 宮崎 恵介)

15時からの総踊りでは、のうねの郷づくり推進協議会メンバーと長畝小学校3年生の親子が参加しました。途中、雨が降ってきましたが、小学生たちの「WE LOVEのうね」の掛け声で元気いっぱい笑顔で踊りきり、見事優秀賞を受賞しました!



暑 い夏、親睦を深める 里丸岡夏祭り開催

8月5日(土)、つつみ公民館で、里丸岡壮年会主催の「里丸岡夏祭り」が開催されました。焼き鳥・焼きそば・かき氷などの食べ物ブース、スーパーボール・輪投げなどの遊びブースなどの他、お菓子まきやお楽しみ抽選会がありました。暑い中、たくさんのお客さんがやって来て、夜遅くまでにぎわいました。

新型コロナウイルス感染症で実施を自粛した年もありましたが、今年で4回目です。里丸岡青壮年会は、里丸岡夏祭りを通して、里丸岡区の住民のふれあいの場を作り、若者どうしがより一層親睦を深め、里丸岡地区への奉仕活動に貢献できればと考えています。

里丸岡夏祭りに参加した里丸岡区のみなさんが、作りたての食べ物をおいしそうに食べたり、お菓子まきで盛り上がったたり、うれしそうな笑顔で会話をしていたりする様子を見ることができて、今年も里丸岡夏祭りができてとても良かったと思います。

(里丸岡区長 堤 正樹)



賑 わい復活!響く笑い声 坪江区夏祭り

8月6日(日)、4年ぶりに!坪江区に賑わいの日が戻ってきました。

思えば4年前、何か区民総参加型のイベントをしようと始まった『夏祭り』。過去にも『ふるさと祭り』の名称で行っていましたが、婦人会の負担増大とマンネリ化などで消滅。負担軽減を計り始めるも、コロナ禍の自粛で中止が続き、再出発の今年、しあわせ会が作品展示とビデオ放映、実年会がドリンクバー、婦人会がそうめんとおにぎり、業者にちょっとしたおかずを頼み、自警団がやきとりの番?!、子ども会が花火大会、役員会がビンゴ大会、みんなで会場設営と後始末と作業分担し始めた、夏祭りビンゴ大会では、数字が出るたびに一喜一憂し、子どもたちがはしゃぎ、集落センター内外で歓声と笑い声が絶えない数時間でした。

(坪江区長談)



Do you know.NE?

の〜ね!

企業の星 VOL.4

株式会社タニコーテック福井丸岡工場
丸岡町外田4-100-1
URL: <https://www.tanico.com/>

業務用厨房機器業界 NO.1 のタニコーテック ～顧客オーダーに応えられるのは、従業員の高い技術～

株式会社タニコーテックは、業務用厨房機器の製造会社。1976年に創業した同社は、飲食店のこだわりのキッチンから給食センターで使用される大型の厨房機器まで幅広い顧客のオーダーに応える、業務用厨房機器業界のリーディングカンパニーとなっている。本社は大半が丸岡市にあり、1989年1月に丸岡町外田の地に福井丸岡工場を開所させた。福井丸岡工場では、現在64人が働いており、切断・加工・溶接・組み立てなどを分業で行い、ステンレス素材からさまざまな厨房機器を一から仕上げている。



▲ 坂井市丸岡町外田にあるタニコーテック福井丸岡工場。特徴的な緑と赤のロゴ「tanico」



▲ 大型厨房機器の組み立てには約1ヶ月掛かる。一つ一つの作業を丁寧に扱う矢崎さん。

今回紹介する「企業の星」は、福井丸岡工場に勤務する矢崎亮範さん(丸岡町鳴鹿地区)。入社して11年目となる矢崎さんは、同僚二人で大型厨房機器の組み立て作業を担当している。「やりがいがある、自分に合っている仕事」と語る矢崎さん。「自分なりに完成イメージを持ち、そのイメージに近づけるよう考えながら作業している」と話す。現在、給食センターの揚げ物調理に使われる大型連続式フライヤーを手掛けている矢崎さんは、その製品の設計書を自身の頭の中に入れ、手際よく溶接などを施して組み立てている。「厚板を溶接するにはかなりの技術が必要。その技術は会社の中でも1番」と工場長が太鼓判を押すほどの溶接技術を持つ矢崎さん。気温に応じて溶接電流の上げ下げといった細やかな工夫を惜しまず行い、より良い製品づくりを励んでいる。手掛けた製品を顧客に安心して使ってもらえるよう、日々その技術を磨き上げている若手の有望株だ。



歴史の場所を歩く③ のうねのパワースポット 「豊原の滝」

豊原の山への入口、五味川の上流に砂防ダムがあつて、その付け根のところにもみごとな滝があります。

豊原の関御井の泉から湧き出る水を水源として、きれいで豊かな水が年中枯れることがなく流れ出て、滝の上部の岩壁に流れ出て落ちている。このあたり一帯は白山火山から流れ出た熔岩が固まった岩山で、その岩壁が谷を形成しているのである。落差は八メートルとされているが実際にはもう少し落差があると思われる。以前は、上部の岩のところで二手に分かれて二条の水が流れ落ちているが

今は一条だけが勢いよく流れ落ちている。水量が多くなると最上部の岩の間で二手に分かれて二条になる事もあるそうだが、今はほとんど二条になる事は無いようだ。このあたりの岩石はよほど硬いのか、滝壺はそれほど深く掘られることもなく、そのままダムに流れ込んでいる。滝の最上部に古い地蔵仏が祀られてあつて、昔から地域の信仰の滝であつたことがわかります。

のうねの郷づくり推進協議会によって漣壺のところで降る遊歩道にロープが張られて整備されてきたが、今は雑草、雑木が繁茂して下へ降りるのは、ちよつと危険な状態になっている。ここは、長畝地区を横断して流れる五味川の水源であり、昭和四十年代に砂防ダムができて、代に砂防ダムの付け根に滝が位置しているが、以前は深い谷で谷を縫って、自動車なども通れない細い道があつた。夏になると地域の村の子供たちが自転車でここに来て、水浴びをして遊んだそう。最盛期には氷水やジュースを販売する店屋まで出たという。



落ちる様子を見てみると体内に力が湧き上がってさくような感じになる。まさしくここはのうねの「パワースポット」だという神秘的気分になる。

復旧して元のきれいな湖面に戻ってほしいものだ。また、滝壺へ降りる道も復旧してほしいが、これは我々のうね郷協の仕事だろう。

(文責 水崎亮博)



みんながカメラマン
投稿!
スクープ写真

お金の話には要注意

10月4日(水)のうねの郷第二コミュニティセンターで長畝すこやか第二クラブのサロン会を実施しました。

最近、オレオレ詐欺の被害が多いため、坂井市消費者センターの方々の「オレオレ詐欺劇」をみて、「ハッキリ断る、相談する」など、楽しく勉強しました。

ほかに、参加者25名で、脳トレ・輪投げゲーム・フレイル体操・食事会などをして、1日和気あいあいと過ごし、健康で長生きを約束して会を終えました。

投稿者 タクタクのうね

